

悠久同窓会会誌

悠久

阿南高専悠久同窓会



2025・春
第57号

2025年3月18日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



令和6年11月17日 全国高専ロボコン出場（2大会連続）、本校学生が選手宣誓

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

専門領域に立脚した新たな情報教育・学生の活躍 2024
学寮（明正寮）便り・一般教養便り・機械コース便り・電気コース便り
情報コース便り・建設コース便り・化学コース便り・専攻科より

会員だより

近況短信・赤い手帖（34）・たそがれびとの子守唄 ⑤
午後の珈琲ブレイク・～自分史の記録～お遍路結願 2015
フランス国土一周 回想録（4）・最後の同窓会を終えて
阿南高専一期会「喜寿を祝う会」開催

令和6年度悠久同窓会総会
拓土会報告

現役クラブだより

〈体育部〉 テニス部

〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング研究部

蒼阿祭 2024

支部だより

東京支部・徳島支部

事務局より

総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

箕島 弘二

悠久同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。昨年は、元旦早々に令和6年能登半島地震が発生、8月には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発令、しかも能登半島では9月に豪雨災害にも見舞われました。全地球モデルシミュレーションでは、地球温暖化により今までにない強烈な豪雨やスーパー台風をはじめとする異常気象が生じやすいことが指摘されており、昨年もヨーロッパ、アジアを始め世界各地で洪水や干ばつ被害が報道されています。

徳島は、近い将来に南海トラフを震源とする巨大地震に襲われることが想定されています。しかも、阿南高専の立地場所では洪水による最大想定浸水深さは0.5～3.0mに達します。地震、津波、洪水等の緊急事態には、先ず学生の皆様の命・安全を守り、同時に地域の拠点としての機能を果たすことが不可欠です。防災・減災対策を講じて、災害後の教育継続を含めた事業継続計画を日々検討、更新して、安全な高専となるように努めています。

昨年は、3月20日（春分の日）に創立60周年記念式典、記念講演会、学生寮の竣工式を挙行了しました。開催にあたって、同窓会の皆様から過分のご支援、ご協力を賜りましたことに篤く御礼申し上げます。周年行事では、「創立の理念の下、時代の要請に応じて教育を含めて種々の改革を行いながら60年の時を刻んできた。」「我々の高専の特長や存在意義はここにある。」「この先40年（創立100年）、60年（創立120年）に向けて一致協力して全力を尽くそう。」「こういった思いを、阿南高専に関わる全ての方が確認する機会とすることにその意義があります。阿南高専の卒業生、在学生、教職員の皆様が今までに培ってきた阿南高専力、阿南高専カラーを、今後とも時代の要請に応じて発展できるように、教職員一同、今後とも努力する所存です。

学生生活は、昨年来、コロナ禍前の状態に戻り、皆笑顔で勉強、課外活動、研究に励んでいます。昨年は、卒業式・修了式を阿南市文化会館夢ホールで挙行後に、ロイヤルガーデンホテル阿南で祝賀会を4年ぶりに開催しました。祝賀会では卒業生と教員が極めて近い関係にあることが見て取れ、ここに阿南高専の強みの一つの源があることが分かります。一昨年から学生の海外派遣も再開し、昨年はシンガポール、ベトナムを始めとして20名（2024年12月現在、この春に36名予定、計56名）を派遣、海外からの短期留学生受け入れも5年ぶりに再開し、ドイツのオストフアリア応用科学大学から1名（半年）、シンガポールのリパブリック・ポリテクニクより4名（4～5ヶ月）を、また、両校からの学生訪問団も受け入れました。留学生もタイ、ミャンマー、ウガンダ、ラオス、イランから計13名が在学中です。留学生の割合はまだ小さいですが、海外派遣や短期を含めた海外からの学生との交流を通して、学生の国際感覚醸成に寄与しています。

昨年11月には、本校が主管として第21回全国高等専門学校デザインコンペティション、「デザコン2024 in 阿

南」を、体育館を始めとする学内を会場に2日間にわたって開催しました。土木・建築系の5部門で課題解決を競うもので、約700人が参加しました。複数の部門に分かれ、多くの方が参加されることから、コロナ禍で一部オンラインかつ1日開催とした2021年を除いて、学外施設で開催されていなかったので、高専キャンパスを会場として開催した2日間にわたるデザコンは今回が初めてになります。部門によっては、司会等も高専生が担当など、工夫が凝らされています。工学系学部と異なる、高専の工学教育の特長は、実験・実習を多く配置し、しかも企業や地域の課題解決を図る課題解決型学習を教育の随所に織り込み、低学年からのキャリア教育、阿南高専科学振興会（AST）等と連携した起業家を始めとする種々の講演会、学寮内での教育など、実践力、創造性、さらには主体的学びを育む仕掛けを教育にうまく組み込んでいることが挙げられます。デザコンを始めとする高専間で課題解決を競う課外活動もこの教育の重要な一翼を担っています。今回のデザコン開催では全教職員に協力をお願いしましたが、高専生の生き生きした姿をみると、教職員の仕事冥利の一つになったと思います。また、ロボコン（高専ロボットコンテスト）は昨年に続いて全国大会（於 両国国技館）出場を果たしました。今年は四国地区ロボコン大会を、阿南高専を会場として開催すべく、準備を進めています。

教育に関しては、一昨年の公募で、全国で5高専のうちの1校として、10年間の支援が決定した、文部科学省の大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）の中核である、各専門コースに特化した高度情報教育プログラムをこの4月から設置します。AI（人工知能）を始めとするデータ科学は、数学・物理・化学と同様に工学の基盤であるとの考えから、学内の情報教育を統括・支援する組織として高度情報教育センターを昨年春に立ち上げ、専任の特命教員（特任教員）を2名採用、さらにこの4月にはさらに2名採用できるように準備しています。この事業では情報教育機器整備に加え、3階建ての高度情報教育センター棟も整備し、来春には図書館西側に竣工予定です。データ科学はあらゆる分野に変革を起こすと同時に、人口縮小社会では、課題解決を図る有力な手段となりえることから、この分野の教育を今後とも拡充する計画です。

また、高専生は実践力に加え創造性に富むことから起業家育成を担う高等教育機関として高専の重要性が認識されており、本校も起業家工房を設置するなど、アントレプレナーシップ教育の強化を図っています。起業家となる卒業・修了生を増やすためには、一つには企業家マインドを醸成する教育や環境整備が必要であり、同窓会会員の皆様のご支援、ご協力が欠かせません。

経済協力開発機構（OECD）によると、日本の学部入学者に占める理工系学生の割合は17%と、OECD加盟国中のほぼ最下位と報告されています。カーボンニュートラルを始めとする地球温暖化対策、縮小社会対策、さらにデータ科学を用いた産業変革を担うには、高度理工系人材が不可欠であり、高専もその重要な一翼を担っています。日本そして世界で活躍する阿南高専卒業・修了生を輩出する使命を果たすべく、今後の社会変革や技術革新に対応できる学生を育成するために、教育課程の見直し等の改革を継続します。阿南の地に根ざした高専として、地域企業等との共同研究を始めとして、社会人のためのリカレント教育や小中学校の出前授業などの地域貢献を学生ともども深化させるべく、教職員一同努力しています。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025 変革と 成長の年

同窓会会長

横手 久典

2024年の年末から寒波が南下し豪雪に見舞われた北海道、東北の地域以外の方々に於かれましては比較的穏やかな正月をお迎えになられたと思います。2024年は元日の能登の大地震から始まり、自然災害に悩まされた年でありました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一刻も早い復旧を願うばかりです。海外では米国大統領選挙また、韓国の戒厳令発令による一連の騒動、そして停戦の気配すら見えない二つの戦争、国内ではネット犯罪の象徴とされた闇バイト事件や後を絶たない詐欺事件、政界では与野党の代表選挙、首相指名選挙、衆院選挙と立て続けに行われ慌ただしくあっという間に年の瀬を迎えた、そんな2024年ではなかったでしょうか。2025年は、世界が平和を取り戻し平穏な日々が一日でも多く続く年であることを願いたいものです。

「教育界の哲人」と呼ばれた森信三先生は晩年、「2025年、日本は再び甦る兆しを見せるであろう。そして、2050年には、列強は日本の底力を認めざるを得なくなるであろう。」と予言されました。森先生の発言の予兆は、東日本大震災時の被災者が列を守って食料を待つ姿が世界で話題になったのを皮切りにサッカーなどの国際試合に試合後の観客席のごみを拾う行為、大谷選手のグラウンドでのマナーやバットやグラブなどの道具を大事に扱う仕事、礼に始まり礼に終わる武士道精神を発揮する日本人アスリートへの世界中の人たちの注目度が年々増していることなどで示されつつあると思われまます。インバウンドで日本を訪れる人は治安の良さだけで来日するのではなく、「日本をより好きになりたい」「日本の文化に浸りたい」「日本人をもっと知りたい」とやってきました。森先生の言葉を信じるならば、これからの25年間の日本の復活のシナリオに阿南高専に関わりを持った人たちが多く加わることを期待したいものです。

昨年の悠久同窓会としての活動報告をさせていただきます。

1月31日に阿南高専参与会に同窓会代表として会議に参加し、阿南高専の現状や今後の展望についての意見交換。2月12日、関西阿南ふるさと会に参加し、阿南高専の入学募集についてのPR。そして3月20日、阿南高専60周年式典が挙行されました。当日は、仁木博文衆院議員、中西祐介参院議員、志田敏郎副知事、岩佐義弘市長また、文部科学省から梅原課長、国立高専機構谷口功理事長、木村哲治施設課長ら多くの御来賓の方々が、そして阿南高専と関わりの深い徳島大正銀行板東豊彦頭取や地元企業の代表者、そしてOB、OGらが駆けつけてくださり、強風の中記念植樹も行われ、60周年を皆で祝うことが出来ました。

記念講演として、映像メディアプロデューサーとして活躍されている阿南高専OBで16M近清武氏に自身で製作

された宇宙ファンタジー映画「COSMOS～光との約束」を中心にお話しいただきました。また、4月20日に開催された関東支部の総会にも近清氏は来て下さり、今後も是非、同窓会には顔を出したいとのことでありました。7月21日には、後援会が主体となる校内美化活動の一環としての草刈りが学校関係者と縁の下の会（悠久同窓会、AST、後援会の三団体の呼称）総勢68名で実施されました。2回目となった夏の草刈り、次年度は暑さを避け、もう少し早い時期での実施にて恒例行事としていくそうです。8月12日悠久同窓会の総会を開催し、恒例の卒業生の講演は大和エネルギー(株)代表取締役 東武氏(17C)にお話しいただきました。東社長は、学生とAST会員を対象とした「AST起業塾」の講師としてもご参加いただき、今後も阿南高専との関りを深くしていただけると期待しております。その後の総会で、我が同窓会の会員資格について一部変更をさせていただくことになりました。10年前より提案されておりました「校友会」制への移行が昨年、悠久同窓会総会にて承認され、後援会総会でも承認され、実現化することとなり、令和7年度入学生より現悠久同窓会の会員資格を得ることとなります。従いまして本年悠久同窓会の総会では名称の変更（「悠久同窓会」から「悠久校友会（仮称）」）を提案させていただく予定です。

9月29日ロボコン四国予選が香川高専にて開催されました。香川高専の同窓会組織「高松工業会」と接触を図り、活動の状況や今後の同窓会の在り方などについて意見交換をいたしました。四国の高専の同窓会の交流によって各高専に潜む問題も解決できるのではないかと考えます。それぞれの高専のステータスを維持することにより、我が国の工業・産業の発展に大いに寄与できるものと信じます。ロボコンの結果は見事、2年連続の全国大会出場を決めました。10月13日の蒼阿祭の前日、関東、関西、徳島支部長と共に「神山まるごと高専」の視察、その後「悠久同窓会支部長連絡会議」を行い、懇親会では箕島校長にもお付き合いいただきました。翌日の蒼阿祭では、一昨年同様に「悠久」ブースを設けていただき、卒業アルバムや同窓会誌「悠久」などを展示し、各支部長のご協力を得て現役学生や久々に母校を訪れたOB、OGとの交流を深めていただきました。また、8Eの同窓会を阿南のホテルでの開催前に母校の文化祭と母校の見学に來られ、「悠久」ブースに足を運んでくださいました。盛況に2日間を終えることが出来、安堵いたしました。

11月17日、ロボコンの全国大会が両国国技館で開催、悠久同窓会の新しい半被を纏った関東支部のOBの熱い声援の中、1回戦を突破し盛り上がったようです。学生たちもさぞ、心強かったのではないのでしょうか。

このほか、毎月「縁の下の会」(AST、後援会、悠久同窓会、学校)の会議が実施され、互いの情報共有を図り、問題解決に向けての相談を続けております。昨年、5年に一度の同窓会名簿を発刊いたしました。個人情報保護法の観点より発刊については各方面から多くのご助言をいただき、発刊に至りましたが関係各位に於かれましては名簿の取り扱いには十分にご注意をいただき、紛失を含め決して外に漏れないようお願いいたします。処分にお困りでしたら阿南高専同窓会事務局へご返却いただければと思います。2025年は、変革を遂げつつ発展成長する年にしたいと思っておりますので、今以上のご支援・ご協力を賜りたくお願いを申し上げます。

会員の皆様のご多幸とご健勝また更なるご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

重要なお知らせ

同窓会誌「悠久」の発行・配布について

悠久同窓会の活動は、会員の皆様からの年会費と新規入会者（卒業生）からの入会金によって支えられています。昨今の印刷費や郵送費等の物価高騰、ならびに会員の皆様からの会費収入の減少により、会報発行・配布の継続が厳しくなっている状況にあります。つきましては、

令和7年度発行「悠久 58号」より、年会費納入者に限定して配布することにいたしました。

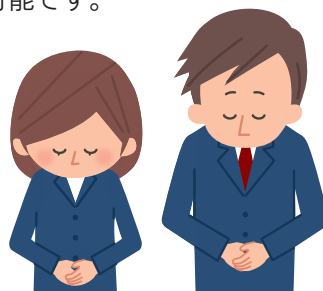
今後も更なる経費節減に努める所存ですが、会員の皆様には、年会費の趣旨をご理解いただき、同封の払込取扱票にて年会費をお振込みいただけますと幸甚です。

今後とも、悠久同窓会の運営につきましてご理解、ご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

また、同窓会誌「悠久」（バックナンバー含む）はWEBでも閲覧可能です。

こちらの悠久同窓会ホームページをご覧ください。

<https://yukyu-dosokai.com/archives/category/publications>



よろず
伝言板

悠久同窓会ホームページのお知らせ

昨年度より、悠久同窓会ホームページを開設しました。

各支部のご案内、刊行物（同窓会誌）の閲覧、お知らせなどのコンテンツを用意しております。まだ作成途中ではありますが、今後、卒業生の皆様に情報発信していく予定です。是非ご覧ください。

<https://yukyu-dosokai.com/>

【阿南高専 HP「悠久同窓会」ページにもリンクを設定しています】

悠久同窓会ホームページには、同窓会誌「悠久」のPDFデータを掲載しています。

バックナンバーも含め、WEB上でいつでも「悠久」をご覧いただくことができます。

今後、冊子で「悠久」の送付を希望されない方は、同窓会事務局までメールでお知らせいただくか、下記QRコードを読み込み、必要事項を入力してください。

悠久同窓会事務局メール

dosokai@anan-nct.ac.jp

卒業回（卒業年）、所属学科（コース）、お名前と「悠久の冊子送付は不要」の旨ご連絡ください。

悠久同窓会連絡フォーム

悠久冊子送付不要の連絡ほか、住所変更、その他お問い合わせなども、こちらのフォームからご連絡可能です。QRコードを読み取ってください。



学 校 だ よ り

専門領域に立脚した 新たな情報教育

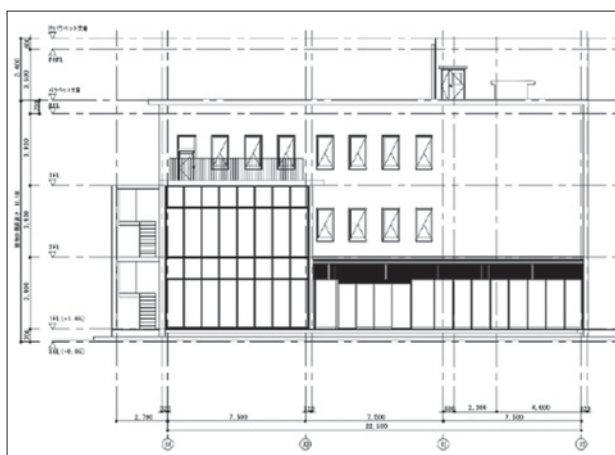
教務主事

松 本 高 志

悠久同窓会会員の皆さま、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。教務主事を務めております電気コースの松本高志です。

経済産業省においては、企業のDX推進の変化や生成AI等のデジタル技術の進展を踏まえ、新たな時代に即したデジタル人材政策の方向性について議論・検討が進められており、令和4年12月に定義されたデジタルスキル標準は、生成AI技術の急速な進展から、毎年改訂され現在はDX推進スキル標準(ver1.2)が公表されています。一方、文部科学省においては、デジタル化の加速度的な進展や脱炭素の世界的な潮流が、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけでなく、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想されることから、成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援が始まりました。本校は大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)へ応募し、公募の初年度である昨年度に採択されています。2025年度入学生からカリキュラムを改訂して全学生が各専門の学びに立脚した情報科目を履修することになります。これにより、従来の各専門領域の知識・技術はもとより、それぞれの領域においてデータサイエンス・AI等を活用できる人材を育成します。この取組を推進するため新しい高度情報教育センター棟を図書館の西側に建築します。2025年1月現在、詳細設計が進行中で2026年3月竣工を目指しています。

令和6年度留学生は合計13名です。国費留学の他、



高度情報教育センター西側立面図



タイ高専(KOSEN-KMITL)からの3年次編入、タイ王国のチュラポーン王女サイエンスハイスクールからの1年次入学の留学生たちで、出身国としては、タイ(8名)、ミャンマー(2名)、ウガンダ、イラン、ラオスです。短期留学生としてドイツの協定校オストファリア応用科学大学から1名が4月から6カ月間、シンガポールの協定校リパブリック・ポリテクニクから4名が9月から3~4カ月間滞在しました。また短期訪問として、10月にリパブリック・ポリテクニクから教員3名と学生36名の訪問団が来訪し、本校学生と茶道体験などを通して交流しました。さらに同月、オストファリア応用科学大学から11名の訪問団が来校して、剣道など日本文化体験をとおして本校学生と交流できました。コロナ禍で停滞した海外派遣・受入を再開できており、夏休みには、台湾、シンガポールへ学生を派遣しました。3月にもシンガポールのシンガポール・ポリテクニクを訪問する短期研修、台湾の国立聯合大学を訪問する短期研修、マレーシアのADTECを訪問する短期研修、韓国の英語村での語学研修を予定しています。次年度はドイツ協定校への訪問も検討しており、コロナ前と同様に活発な国際交流を推進していきます。

本校が主催する今年度の企業研究セミナーは、12月に2日間開催し過去最高の364社が参加しました。3年生は早期の企業研究やインターンシップ企業検討を目的に参加し、さらに2年生の希望者も参加して活発に情報収集していました。キッチンカーも出店し、にぎやかなセミナーとなりました。一方、スタートアップが社会的課題を成長のエンジンへと転換して持続可能な経済社会を実現するものとして、政府はスタートアップ育成5か年計画を推進しています。文部科学省もスタートアップ人材の育成を支援しており、アントレプレナーシップ教育が求められています。本校は正課外の活動として少しずつ取り組んでいて、外部講師招聘によるアントレプレナーシップ教育、阿南高専科学技術振興会によるOBOG起業家講師を招聘するAST起業塾を開催しています。昨年度から始まった高専

起業家サミットにも毎年参加できています。将来的には正課授業に組み込む必要があると考えています。

アントレプレナーシップ教育に関連して STEAM 教育も最近の教育キーワードとして挙げられます。STEAM 教育とは、「科学 (Science)」「技術 (Technology)」「工学 (Engineering)」「芸術・リベラルアーツ (Art)」「数学 (Mathematics)」の5つの分野を統合的に学ぶ教育のことです。Aは芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で定義され、STEAM 教育は各教科等での学びを実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習です。阿南高専は、令和4年度から高専機構本部が推進している「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型 STEAM 教育強化」に先進実践校として採択され、小中学生を対象とした早期理工系人材の育成と高専生を対象とした STEAM 教育に取り組み、令和6年度からは高専生を対象とした STEAM 教育の拠点校、およびメタバース活用を支援するアドバイザー校に採択され、活動しています。文理融合、メタバースを活用した STEAM 教育コンテンツを開発しています。

学生が社会で活躍できる確かな学力を培うとともに、人間力も養える機会を提供できるよう、今後とも努めて参ります。

2024年が、皆さまと阿南高専にとってより良き一年になりますように。



高専ロボコン全国大会選手宣誓

高専ロボコン終了後



高専プロコン

れます。協賛企業は、これまでのデザコンで最多となる約60社の参加がありました。本校学生は約130名がスタッフとして参加しました。初日の午後はいにく大雨となりましたが、2日目は秋晴れとなり、すべての行事が無事予定通りに行われ、成功裡に終了しました。終了後、専門部会の教員、協賛企業各社から大会運営について高い評価をいただきました。今回の開催にあたりご協力くださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。

高専ロボコンは、四国地区大会（香川高専高松キャンパス）において阿南高専 A チーム「★ SLIAC ★（スライアック）」がデザイン賞を受賞し、全国大会出場を果たしました。全国大会は11月17日、両国国技館で行われ、悠久同窓会の皆様にも多数の応援をいただきました。結果は二回戦敗退でしたが、初戦を突破し、見事、全国大会初勝利を収めました。開会式では、本校 A チームのキャプテンが選手宣誓を務めました。

全国高専プロコン（なら100年会館）は、課題部門で特別賞（3位相当）を受賞しました。

○高専体育大会

2024年7月に開催された第61回四国地区高専体育大会において優秀な成績を収め、柔道・水泳・バドミントン・ソフトテニス・卓球・陸上・テニス・サッカー競技の、計80名が全国大会出場を果たしました。

9月、北海道地区で開催された第59回全国高専体育大会では、テニス競技において男子団体第3位、女子団体準優勝、女子シングルス優勝、女子ダブルス優勝と優秀な成績を収めました。また、バドミントン競技において男子団体第3位、水泳競技において女子100m平泳ぎ第3位と健闘しました。

○国民スポーツ大会（SAGA2024 国スポ）

2024年10月13～15日、佐賀県で開催された国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」のスポーツクライミン



学生の活躍 2024

学生主事
錦 織 浩 文

○コンテスト関係

2024年11月2日～3日、第21回全国高等専門学校デザインコンペティション「デザコン 2024 in 阿南」が阿南高専を主管として本校キャンパスにて開催されました。2日間にわたり、構造デザイン・空間デザイン・創造デザイン・AM デザイン・プレデザコンの5部門において、競技・プレゼンテーションを行いました。構造デザイン部門では、モンゴルの高専から6チームの参加がありました。プレデザコン部門では、創造デザインフィールドにおいて本校学生2名による作品が最優秀を受賞しました。次回福井大会で配布されるトートバックのデザインとして使用さ



高専デザコン開会式



▲国スポボウリング
▲国スポクライミング

グ競技とボウリング競技に本校学生が出場しました。スポーツクライミングではボルダー第7位、リード第8位、ボウリングでは少年男子第8位と健闘しました。

○県内大会・全国大会など

その他の大会における学生の活躍のうち主なものを挙げます（ここでは原稿締切の関係で12月までの成績）。

- ・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会県予選（4月）
男子 66kg級 準優勝
- ・徳島県高等学校バドミントン選手権大会（5月）
男子ダブルス 第3位
- ・全日本ブラジリアン柔術オープントーナメント（5月）
男子・青アダルトフェザー 準優勝
- ・徳島県高等学校選手権水泳競技大会（6月）
女子 200m平泳ぎ 第2位
女子 100mバタフライ 第2位
- ・徳島県高等学校新人大会（9月～10月）
陸上 男子走高跳 第2位
男子やり投 第3位
柔道 男子団体 第3位 ほか
テニス 女子ダブルス 優勝
女子シングルス 準優勝
- ・全日本バレーボール高等学校選手権大会徳島県予選会（11月）
男子 第3位
- ・West Japan Open Jiu Jitsu Championship 2024（11月）
男子・青アダルトフェザー 第1位

○四国地区高専総合文化祭

2024年12月22日、ハイスタッフホールで開催された四国地区高等専門学校総合文化祭では、吹奏楽・軽音楽・落語・絵画・写真・書道・将棋・茶道・英語スピーチコンテスト・留学生・ストリートダンスの各部門に学生94名が参加しました。

○蒼阿祭

最後に蒼阿祭について。2024年10月13日、第16回蒼阿祭を開催しました。コロナ禍が収まった今年度は、5年ぶりに模擬店を設置しました。模擬店の電化製品・発電機等のレンタルについて悠久同窓会の後援を賜りました。厚く御礼申し上げます。また、昨年度に引き続きお笑い芸人を招いてお笑いライブを開催しました。今回のゲストは、ビスケットブラザーズ、ほる塾、みつとしーでした。キッ

チンカーは3台。来場者多数の蒼阿祭となりました。フェニックス広場では軽音野外ライブ、カラオケ大会、吹奏楽などの公演を行い、室内では専門展示のほか、軽音LIVE配信、アニクラ、写真・書道・鉄道研究会展示、演劇動画公開、落語公演、茶道部お茶会、ストリートダンスなど、今回新たな試みとして、フィジク大会を開き、会場は盛り上がりました。悠久同窓会もブースを構え、学生・保護者からの各種相談に応じていただきました。



蒼阿祭ポスター



蒼阿祭悠久同窓会

○おわりに

これからもいろいろな場面で学生が活躍できるよう支援していきます。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

学寮（明正寮）便り

寮務主事
田上 隆 徳

悠久同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度より寮務主事を務めます一般教養数学の田上隆徳です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、明正寮は新入寮生121名を迎え、総勢418名（内留学生12名）でスタートしました。昨年度と比べて、1年生で32名増、全体として48名増となっています。1年生の増加が顕著であり、これも学生・保護者の方々の寮生活に対する期待の表れだと考えています。今後も安全で快適な寮生活となるよう努めます。ここでは令和6年度の明正寮の主な活動についてご報告いたします。

■ 寄宿舍4号館の新営

新営された4号館は2階建ての建物で、主に高学年男子と男子留学生が生活しています。全室個室であり、7人を1ユニットとして、計8ユニットの構成となっています。各ユニットの共有スペースにはキッチン、ランドリー、シャワー室が完備されており、寮生は快適に過ごしています。



■ 教養講座（茶道・華道・英会話）

茶道は茶道室において、講師の先生や茶道部の部員の方々に茶道の作法や立ち振る舞いを教わり、実際にお茶を点て、一連の流れを練習しています。華道は寮集會室において、講師の先生から使う花の説明を聞き、アドバイスを頂きながら、自分の好みに合わせて工夫して作品を完成させています。



■ 学寮防災訓練（津波避難・火災避難）

春季防災訓練（津波避難）を5月15日（水）に実施しました。スムーズに屋上への移動ができたため、約10分で避難を完了しました。また、秋季防災訓練（火災避難）を10月22日（火）に実施しました。防災委員の指示に従いグラウンドへ移動し、約10分で避難を完了しました。その後、訓練用消火器を用いた消火体験をしました。



■ 特別講演会

寮生にとって有益な内容の特別講演会を定期的に開催しています。1年寮生を対象とした講演では、阿南警察署生活安全課の方を講師にお招きし、薬物の危険性に関するご講話を頂きました。また、4年寮生を対象とした講演では、トモニホールディングス株式会社代表取締役社長兼 CEO の中村武氏を講師にお招きし、消費者として必要となる金融リテラシーなどについてのご講話を頂きました。



■ 学寮組織運営

明正寮には、役員寮生・各種委員会の寮生組織があり、寮の運営に大いに貢献しています。役員寮生の役割は、寮生間のトラブル対応や相談役など多岐に渡ります。また7つの委員会（環境、設備、防災、イベント、IT管理、国際交流、広報）では、委員の一人一人が責任感を持ち、寮生活を良くするために日々活動しています。

明正寮の最新の情報は、寮内の広報委員を通じて随時本校ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

今後も寮生とその保護者にとって満足してもらえる寮生活となるよう、寮務主事として誠心誠意職務にあたります。

一般教養便り

一般教養主任
藤 居 岳 人

悠久同窓会会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続いて一般教養主任を務める藤居でございます。よろしく願いいたします。

自分が阿南高専に勤めはじめて今年度で35年目となります。途中、中国留学や奈良高専へ出向していた時期等もありますが、これほど長く勤めているとは意識していませんでした。常勤教員で自分より以前からお勤めの先生も少なくなってきました。現在、機械コースの伊丹伸先生がその唯一の先生です。国語の坪井泰士先生も私より先にお勤めだったのですが、去る4月付けで大分高専の校長に転任なさって、一般教養では私が一番の古株になっています。長く阿南高専に勤めている関係で、卒業生と会う機会も増えてきて、ちよくちよく同窓会に呼ばれて楽しい時間を過ごせています。また、毎年12月に実施されている企業研究セミナーでも卒業生が会社代表でやってきて、立派な社会人になって活躍しているのを見ると嬉しくなります。現役の学生もまじめな学生が多く、いい雰囲気为学校になっています。

それでは一般教養教員の異動についてご報告いたします。上述しましたが、国語の坪井泰士先生は大分高専の校長に転任されました。教科指導のみならず、教務主事や学生主事等、校務でも阿南高専に大きな貢献をなさいました。そのご経験を活かしてぜひ大分高専でもご活躍いただきたいです。また、数学の遠藤健太先生が鈴鹿高専に転出なさいました。阿南高専では1年間だけのご勤務でしたが、こちらも鈴鹿高専でのご活躍を期待したいと思います。そして、坪井先生の後任として8月から藤原みずき先生がご着任なさいました。先生は日本文学・日本文化がご専門で、特に遠州流茶道の形成過程を研究されています。後期からは2年生日本語総合と5年生日本語・日本文化の講義を担当され、阿南高専に新しい風を吹かせてくれています。

他には、4月に体育の新井修先生が准教授から教授に昇任なさいました。先生はスポーツ運動学・トレーニング学

がご専門で、今後、より一層のご研究の進展を期待しております。次に英語の福井龍太先生は、助教から講師に昇任されました。先生は言語学がご専門で、講義やご研究のみならずグローバル推進室でもより一層のご活躍を期待しています。最後に、勝藤和子先生と櫛田雅弘先生は、昨年度から嘱託教授として阿南高専で教鞭を執られています。今年度でご退任となります。ただ、両先生とも来年度は非常勤講師として引き続き阿南高専で教鞭を執られる予定と聞いています。

続いて今年度の一般教養の教員をご紹介します。

国語は、錦織浩文先生（国語教科主任）、藤原みずき先生です。主な校務は以下の通りです。（以下、各教科とも同じ）

錦織先生	学生主事
藤原先生	学生主事補、2I 副担任
社会は、今田浩之先生（社会教科主任）、藤居です。	
今田先生	2E 担任（学年主任）
藤居	一般教養主任、1-3・1-4 副担任
数学は、田上隆徳先生（数学教科主任）、山田耕太郎先生、西森康人先生、浮田卓也先生、櫛田雅弘先生です。	
田上先生	寮務主事
山田（耕）先生	2M 担任、学生主事補
西森先生	2I 担任、教務主事補
浮田先生	1-4 担任
櫛田先生	

英語は、藤井浩美先生（英語教科主任）、谷中俊裕先生、プロワント先生、福井龍太先生、勝藤和子先生です。

藤井先生	広報情報室長、1-1・1-2 副担任
谷中先生	1-3 担任
プロワント先生	寮務主事補、2C・2Z 副担任
福井先生	2C 担任、寮監
勝藤先生	

理科は、松尾俊寛先生、山田洋平先生（理科教科主任）、園田昭彦先生です。

松尾先生	図書館長、1-1 担任
山田（洋）先生	学生相談室長、2M 副担任
園田先生	2Z 担任、教務主事補

体育は新井修先生（体育教科主任）、中島一先生です。

新井先生	副学生主事
中島先生	1-2 担任

今年度は以上のメンバーで学生の教育・指導に取り組んでいます。上述のように校務を複数兼務する教員も昨年度以上に増えて、より忙しくなっております。悠久同窓会の皆さまにもさまざまな面でご支援いただければ幸いです。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さまのよりいっそうのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

機械コース便り

機械コース主任

奥本良博

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度、機械コース主任を務めております奥本です。どうぞよろしくお願いいたします。

機械コースの近況についてご報告させていただきます。まず《驚きの》人事のお話です。令和6年6月から原野智哉先生が幾度の選考を勝ち抜いて全国高専教員から選抜されて、タイ高専へ出向されています。その代わりにOBの中岡信司先生（11回機械）が製図とCADの指導を担当、そして学生主事補の任務に着いてもらっています。中岡先生の優しいお人柄を慕って学生も楽しそうです。

今年度は、そのようなこともあってそれぞれの先生方にいろいろと負荷がかかっているような状況です。西本浩司先生は専攻科長補佐と学寮副主事の二刀流で獅子奮迅の活躍をいただいています。大北裕司先生には3年生担任と広報副委員長をお願いしています。川畑成之先生は『機械コースのエースポジション』の4年生担任、4年生のインターンと5年生の進学を担当です。加えてロボコン担当を続けていただき、今年度は2年連続でチームが全国大会に進出しました。松浦史法先生は総合情報処理室長、教務主事補と高度情報教育センターのメンバーの三刀流です。安田武司先生はグローバル推進室長と3年生副担任です。伊丹伸先生は5年生担任です。西野精一先生には退職後も嘱託教授として教育研究にご尽力いただいておりますが、今年度が最後です。来年度以降、とても寂しくなります。

機械コースは2年生の時にクラスの雰囲気づくりの一環で関西地方（USJ 散策を含む）に、3年生の時に修学旅行的な意味合いを込めて関東地方（ネズミの国探検を含む）に工場見学旅行を開催しております。今年度、2年生は9月4日から6日までの2泊3日で実施しました。JFE スチール様、大阪ガス様、小松製作所様およびホソカワミクロン様に見学させていただき、充実した見学旅行となりました。各見学先では卒業生や高専 OB/OG の活躍する姿を見せていただき、学生も刺激を受けたことと思います。3年生は春休みに関東地方での見学を企画しております。

また、8月の中学生体験入学や、秋の学園祭において学生によるワークショップを開催しています。保護者として



2M 工場見学旅行（小松製作所様）

一般参加者として卒業生の方々にも参加していただける行事です。学生たちは日頃から研究室ごとに分かれて準備を進めており、中学生や子供たちに機械工学の魅力を紹介する目的で実験実習や学習の成果を披露してくれています。学生たちの活躍で機械コースはなかなかの人気を維持しております。



中学生一日体験入学の様子

さて、今年度の卒業予定者は35名であり、22名が就職、13名が進学予定です。具体的には、大塚製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、日亜化学工業(株)、四国電力(株)、出光興産(株)、日本オーチスエレベーター(株)、森永乳業(株)、大阪ガスネットワーク(株)、ANA ベースメンテナンステクニクス(株)、Daigas エナジー(株)、ダイキン工業(株)、本田技研工業(株)、日東電工(株)、富士電機(株)、富士フィルムメディカル(株)、(株)GSユアサ、(株)インダ、(株)カネカ、(株)村田製作所、メタウォーター(株)となっています。求人は700社近くあり、超売り手市場というよりも高専人材が超人気であるということだと思います。卒業生の皆様の社会でのご活躍のたまものです。県内就職者が3名と少なく、県外への人材流出が際立っておりますが、後輩が近くに配属になりましたら暖かく見守って頂ければ幸いです。進学先は、本校専攻科、徳島大学、愛媛大学、広島大学、九州大学、豊橋技術科学大学、同志社大学となっています。それぞれ頑張ってお望みの進路につけたものと思われま。

機械コースは「機械！好きかい！ステキかい！」をキャッチフレーズに、ものづくりを通して社会の発展に貢献できる実践的技術者の育成に貢献すべく教職員一同力を尽くしています。特に技術職員の皆さんと協力して実験実習に力を入れて「機械をいじる体験」を増やしております。今後とも卒業生の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

最後になりますが、悠久同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

卒業生です。今年度の教員の校内役職としては、松本高志先生は副校長(教務)・教務主事、中村雄一先生は自己点検・評価委員長と専攻科長補佐、小松実先生は高度情報教育センター長と副教務主事、釜野勝先生は地域連携・テクノセンター長と5E担任(就職担当)、藤原健志先生は4E担任(インターンシップ担当)、香西貴典先生は3E担任、朴英樹先生は学生主事補、後藤祐美先生は寮務主事補となっています。

教職員の活動状況についてですが、藤原健志先生が高志賞(教育部門)を受賞されました。AST 倶楽部「LED イルミネーション」のメンターとして学生を指導し、イベントや出前授業で延べ1,200名の小中学生へLED電子工作講座を実施、阿南市牛岐城趾公園に冬のLEDイルミネーション設置、GCONカンファレンス2024への学生参加などを行い、参加学生の分野横断的能力を大きく高めたことが評価されました。また、電気コースの実験実習支援を主に担当されている尾崎貴弥技術職員も高志賞(教育部門)を受賞されました。電気コース学生の資格取得者数を大きく増加させたこと、3年連続で科研費奨励研究の採択を受けて実験・実習の高度化を行ったことが評価されました。尾崎先生は、さらに国立高等専門学校機構職員表彰の理事長賞も「企業経験を有する技術職員によるレーザー微細加工技術を軸とした企業支援と教育活動」の題目で受賞されました。尾崎先生は、企業で5年間研究開発に従事後、令和元年に本校技術職員に着任されました。企業での開発業務経験で身に付けたレーザー微細加工をはじめとする電気・機械分野の幅広く高度な知識を持つ人材で、内閣府や徳島県からの予算を活用し、本校にレーザー微細加工の共創開発拠点を形成し、これまでに7企業9件の光関連新製品開発支援を行っています。また、予算獲得においても構想検討や申請書作成に大きく貢献されています。これらの企業支援と高志賞受賞となった教育活動を高く評価され、40歳以下は若手奨励賞対象となる中、30代前半・6年目での理事長賞受賞は画期的なことです。

次に学生の活動状況として、専攻科電気電子情報コース2年長谷川菜月さん(小松研究室)が、令和6年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会において「周期構造における構造性発色の数値解析とレーザー加工」の題目で発表を行い「優秀発表賞」を受賞しました。AST 倶楽部「LED イルミネーション」には多くの電気コース学生が参加しており、小中学生対象のLED電子工作講座やそれらを用いたLEDイルミネーションの製作および展示などの学生主体の活動を行ってきました。これらの活動が評価されAST 倶楽部「LED イルミネーション」は「地域の小中学生と作るLEDイルミネーションによる地域貢献活動」という題目で日本高専学会活動奨励賞を受賞し、日本高



令和6年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会での優秀発表賞受賞

電気コース便り

電気コース主任
長谷川 竜 生

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度より電気コース主任を務めさせていただいております長谷川です。よろしくお願いたします。

電気コースの近況についてご報告させていただきます。まず人事ですが、香西貴典先生が令和6年4月1日付で准教授に昇任されました。また、タイ高専に赴任中の小林美緒先生の代替教員として、後藤祐美先生が任期付助教として本校に着任されています。後藤先生は本校電気コースの



日本高専学会第30回年会講演会における
日本高専学会活動奨励賞受賞講演

専学会第30回
年会講演会にお
いて、電気コー
ス5年宇津和奏
さんと電気コー
ス4年佐野美幸
さんが受賞講演
を行いました。

また、電気コー

ス2年姫野金一郎君と電気コース3年黒嶋航成君が第3種電気主任技術者試験（電験3種）に合格しました。合格率1割以下という難関資格で、3年間で「理論」、「電力」、「機械」、「法規」の4科目に合格すれば資格が得られ複数年かけて合格することが多い中、2名とも4科目一発合格の快挙です。特に2年生で一発合格は極めて稀で非常に評価できることです。日本電気協会四国支部は電験3種に合格した高校生の表彰を行っており、2月14日に本校に日本電気協会四国支部の方が来校され表彰式が実施されました。なお、本表彰制度は尾崎技術職員が日本電気協会四国支部に働きかけ今年度より始まったものです。

コロナ禍で中止としていた研修旅行を今年度より再開し、3年生が2泊3日の東京方面研修旅行に行きました。1日目は、東京ビッグサイトで行われた「SEMICON Japan 2024」に参加しました。半導体に関連した最新の技術や素材が数多く展示されており、学生は熱心に見学していました。2日目は、JAL エンジニアリングとNTT 技術史料館を訪問しました。羽田空港にあるJAL 格納庫での整備場見学では、学生は、普段は間近で見ることのできない飛行機のスケールに圧倒され、人々の安全を守るための技術に関する説明に真剣に耳を傾けていました。NTT 技術史料館では、情報通信技術の歴史について楽しく学び、最先端の光技術として知られている「IOWN（アイオン）」についての理解を深めました。

今年3月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者のうち、約7割が就職、3割が進学となりました。就職先企業として、リブドゥコーポレーション、四国電力（4名）、関西電力（2名）、パナソニック、三菱地所コミュニティ、富士フィルムメディカル、サントリーホールディングス、大鵬薬品、Daigasグループ、三条工務店、木内計測、日亜化学工業（2名）、東亜合成、王子エンジニアリングとなっています。進学先として、阿南高専専攻科（2名）、大阪公立大、京都工芸繊維大、早稲田大、熊本大、豊橋技科大、北海道大、東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校となっています。



3年生研修旅行
(SEMICON Japan 2024 見学)

電気コースでは、学生の専門技術の修得とともに社会人基礎力の育成にも努めています。今後ともご支援ご協力をお願いいたしますとともに、悠久同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。



情報コース便り

情報コース主任

福見 淳二

悠久同窓会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き情報コース主任を務めています福見です。よろしくお願いたします。

まず、各先生方の近況についてご報告いたします。田中先生は、現在嘱託教授として教育にご尽力いただいておりますが、今年度が最後となります。長年に渡り情報コース（制御情報工学科）の発展に多大な貢献を果たしていただきました。杉野先生は地域連携・テクノセンター副センター長とリサーチユニット長、吉田先生はキャリア支援室長と4I 担任および就職担当、福田先生は学科長と学生主事補および進学担当、岡本先生は専攻科長、福見はコース主任と5I 担任、安野先生は学生相談室副室長とワークライフバランス・男女共同参画推進委員会委員長および専攻科1年担任、平山先生は副教務主事と総合情報処理室副室長およびキャリア支援室副室長、太田先生は寮務主事補と3I 担任およびリサーチユニット長補、プロコン主担当となっています。どの先生方も、様々な校務を兼務され忙しい日々を過ごしておられます。

次に、情報コースの近況についてご報告いたします。情報コースでは、今年度も9月に3年生が関西への1泊2日研修旅行を実施しました。初日には、昨年度同様に理化学研究所計算科学研究センターを訪問し、スーパーコンピュータ「富岳」の見学を行いました。その後大阪まで移動し、2日目には「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」において、最新の情報技術、プロジェクションマッピング等を体験してきました。この研修旅行を通して、情報コースでの今後の学習への動機付けを高めることができたいと思います。今年度は、これに加えて4年生研修旅行を関東への2泊3日で企画しており、3月にチームラボ・ボードレスの見学やIT 企業のオフィス見学等を予定しています。



3年研修旅行（スーパーコンピュータ「富岳」見学）

また、情報コースの特徴でもある研究活動への取り組みとして、今年度徳島大学で開催された計測自動制御学会四国支部学術講演会2024に情報コースからは5年生15名が



計測自動制御学会四国支部学術講演会
2024での優秀講演賞受賞
(右側学生が5I阿瀬川祥永君)

参加しました。参加者のほとんどは大学院生でしたが、本校学生も卒業研究の成果をショートオーラルとフリースタイルで発表し、昨年度に引き続き5I阿瀬川祥永君の「小規模離島における災害初期対応支援システムの開発」が優秀講演賞を受賞しました。阿南高専情報コースからは3年連続の受賞となります。情報コースでは、今後も本科学生の研究活動活性化に積極的に取り組んでいきます。

令和6年度卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者42名のうち、27名が就職、15名が進学となっています。就職先は、日亜化学工業(株)、大鵬薬品工業(株)、(株)メンバーズ、(株)FIXER、(株)NSD、陸上自衛隊、(株)小松製作所、アイリスオーヤマ(株)、(株)セゾンテクノロジー、(株)ダンクソフト、(株)システムタイムズ、(株)近計システム、山本光学(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、アイフォーコム(株)、(株)システムサポート、サントリー(株)、(株)テクノデジタル、(株)STNet、パーソルクロステクノロジー(株)となっています。進学先は、豊橋技術科学大学、広島大学、徳島大学、本校専攻科となっています。

今後は、より高度な専門知識・技術を身に付けた情報系人材育成のための新しいカリキュラム構築に向けて、情報コース教員一同取り組んでいきます。その最初のステップとして、クラウドシステムエンジニアの育成を視野に入れたカリキュラムを外部企業のエンジニアの方々とともに今年度より試行しています。なお、この取り組みの詳細は別の機会に報告させていただく予定です。悠久同窓会会員の皆様におかれましては、今後ともご支援ご協力をお願いいたしますとともに、さらなるご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



現場見学

て、秋には姜叡先生をお迎えしました。このような中でコース内の主な校務を挙げますと、森山卓郎先生が5C担任と進学担当、長田健吾先生が3C担任、多田豊先生が学生主事補、井上貴文先生が寮務主事補と専攻科担当、角野先生が教務主事補、景政先生が4C担任を、それぞれ担当しております。

今年3月卒業予定の5Cの進路状況は、県内就職が3名、県外就職が12名、進学が10名となっております。就職の内訳として、県内就職先は四国建設コンサルタント(株)、(株)基礎建設コンサルタント、自営となっており、県外就職先は国土交通省、西日本高速道路エンジニアリング関西(株)、本州四国連絡橋高速道路(株)、四国電力(株)、鹿島建設(株)、前田道路(株)、(株)東栄住宅、フジホーム(株)、(株)日本ハウスホールディング、(株)ザイマックス関西、三菱地所コミュニティ(株)(2名)です。また、進学先は専攻科(2名)、長岡技術科大、豊橋技科大(3名)、徳島大学(2名)、岡山大学、東京都立大学です。学生の求人については、おかげさまで良好な状況が続いております。また、本年度は進学の学生が比較的多くなっています。

本年度の11月2日(土)・3日(日)には、本校キャンパスにおいて第21回全国高等専門学校デザコンコンペティション「デザコン2024 in 阿南」が開催されました。悠久同窓会をはじめ、多くの企業等からのご協賛をいただきました。ここに、厚く御礼申し上げます。初日は台風から変わった低気圧の影響で風雨が強い中での実施でしたが、2日目にはすっかりと晴れ上がり、すべてのイベントを実施することができました。



デザコン

最後になりましたが、これからも、より良い高専教育を実施していく所存です。これまで同様、みなさまのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、悠久同窓会のみなさまの益々のご健康とご活躍を祈念いたします。

建設コース便り
建設コース主任
吉村 洋

悠久同窓会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。本年度の建設コース主任を仰せつかっております吉村です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

建設コースの教員の近況についてです。本年度の4月に加藤研二先生が高専機構本部事務局准教授・学務参事補として任期3年間の異動となられました。そし

化学コース便り

化学コース主任
小西 智也

悠久同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き化学コース主任を拝命しております小西でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

化学コースは2024年に10周年の節目を迎えました。これまで1期生～6期生の多くの卒業生を輩出しており、県内外に進学または就職し、各方面で活躍しています。お陰様で多くの企業そして中学校からますます多くの注目をいただいております。化学コースでは「自然を知る（物理化学・分析化学）」「環境を学ぶ（生物学・環境工学）」「物質を創る（有機化学・無機化学・化学工学）」の3つの学びを通して、化学薬品製造技術者、化学プラントエンジニア、品質管理技術者、化学研究者に必要とされる知識と技術を修得します。実践を重視した教育方針に特色があり、4年までに上記6分野にわたって実験科目を設置しています。4年前期には全研究室のテーマを含む「物質化学実験」があり、より実践に即した実験技術を修得します。4年後期からは各研究室に配属され、5年の卒業研究に備えます。令和5年度に新設した「創造ゼミナール」では、大学研究者、企業技術者等を招聘して最先端の科学技術や工学問題について学びます。「環境工学」等、資格取得を見据えた科目も設置されており、多くの学生がeco検定、QC検定、甲種危険物取扱者等の資格を取得しています。



▲ 分析化学実験

学年ごとの構成は2年生28名（担任：園田昭彦先生）、3年生30名（内、留学生1名）（担任：江連涼友先生）、4年生28名（内、留学生1名）（担任：上田康平先生）、5年生26名（担任：大田直友先生）、専攻科1年生1名（留学生）、専攻科2年生1名となっております。なお、中村厚信先生は令和7年3月末でご定年を迎えられます。

2年生は、化学コース10期生です。4月の白衣着用式で化学コースの仲間入り、4年生主催の「ようこそ、化学コースへ！」の会で歓迎されました。フレッシュな雰囲気



▲ 新2年生白衣着用式（2024）

で実験系科目を大いに楽しんでいる様子が印象的です。3年生は、専門科目も一気に増えて大変だったと思いますが、一生懸命勉強して好成績を維持しました。また、蒼阿祭の専門展示や中学生一日体験入学にも積極的に参画してくれました。コロナ後、化学コースで徐々に企画された研修旅行で㈱カネカ、USJ、森永乳業㈱神戸工場を訪問しました。4年生は夏にインターンシップを実施するとともに、12月に本校で開催された企業研究セミナーにも参加し、就職や進学に向けた準備がスタートしました。新成人として、内面的にも大きく成長し、頼もしくなりました。また、後期には創造化学実験（プレ卒）の科目で各研究室に仮配属され、卒業研究に向けたゼミや予備実験も始まりました。5年生は26名全員の進路が確定しました。就職者は16名（専攻科2年生1名含む）で、旭化成㈱、大阪ガスマーケティング㈱、大塚製薬㈱、㈱大塚製薬工場、㈱カネカ、沢井製薬㈱、三洋化成工業㈱、㈱ジャパンコミュニケーション、第一三共㈱（2名）、大日精化工業㈱、DIC ㈱、日垂化学工業㈱（2名）、日東電工㈱、三菱ガス化学㈱より内定をいただきました。また進学者は11名（合格のべ19名）で、阿南高専 専攻科 応用化学コース、早稲田大・先進理工（指定校推薦）、東京工業大・生命理工（特別入試推薦）、千葉大・工（推薦）、長岡技科大・工（推薦）、豊橋技科大・応用化学（推薦）、岡山大・工（推薦）、岡山大・理（推薦）、徳島大・理工（学力）（2名）、京都工芸繊維大・工芸化学（学力）、豊橋技科大・応用化学（学力）（2名）、神戸大・理（学力）（2名）、岡山大・工（学力）（2名）、鹿児島大・経済（学力）、広島大・経済（学力）に合格しました。今年度は進学者の希望が多く、また、新たな進学先も開拓してくれました。例年同様、早々に進路確保できましたことは、これまでの化学コース卒業生、さらには悠久同窓会会員の皆様の多大なご支援・ご協力の賜物です。この場をお借りして心より感謝申し上げます。なお、5年生は卒業論文の完成に向けて日々研究に勤しんでいます。

化学コースは10周年を記念して本格的なPR動画も作製し、YouTubeに公開しました。未来の学生に向けてコースの魅力を存分に紹介しておりますので、是非QRコードからアクセスいただき、ご覧下さい。近年では留学生は3名受け入れ、女子学生はクラスの約半数を占めています。どの学年も明るく、仲の良いクラスです。今後、数十年先にも活躍できる化学系技術者・研究者の養成を目指して、数理・AI・データサイエンスも取り入れた先進的な化学教育も予定されています。化学コースは、教員・職員・



▲ 3年生工場見学



▲ 阿南高専・化学コース公式 PR 動画

学生が一丸となって盛り上げ、日々発展に努めています。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、悠久同窓会会員の皆様のますますのご活躍とご活躍を祈念いたします。

専攻科より

専攻科長
岡本 浩行

悠久同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。昨年度に続き専攻科長を拝命しております岡本と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年度の創造技術システム工学専攻は、機械システムコース (AM)、電気電子情報コース (AE)、建設システムコース (AC)、応用化学コース (AZ) の4コースから構成されており、令和6年度は、1年生はAM 3名、AE 10名、AC 2名、AZ 1名の合計16名が在籍し、1AM・1AC・1AZの担任は鄭涛先生、1AEの担任は安野恵実子先生が担当しております。また、2年生はAM 7名、AE 9名、AC 3名、AZ 1名の20名が在籍し、2AM・2AC・2AZの担任は西本浩司先生、2AEの担任は中村雄一先生が担当しております。また、井上貴文先生は学修総まとめ科目、複合領域ゼミナールなど専攻科科目を担当しております。

専攻科の活動として、1年生は夏季のインターンシップ期間に複数のインターンシップ先で実践的な活動に取り組みました。学生達にとって、インターンシップでの活動は、これから社会に出るために必要なことを意識する貴重な機会となりました。学生達はインターンシップで学んだこと

について令和6年12月11日に開催されたインターンシップ報告会で報告しました。報告会には、専攻科生をインターンシップに受け入れ



▲ 専攻科1年 インターンシップ報告会

ていただいた企業や大学等から、ご多用のところ、20名近くご参加いただきました。専攻科生を受け入れていただき、また丁寧なご指導をいただき誠にありがとうございます。



▲ 専攻科1年 インターンシップ報告会 (マレーシア人的資源省 ADTEC 研修生に対する質疑応答)

また、JICA 国別研修で本校を訪問していたマレーシア人的資源省の ADTEC (上級技術訓練センター) からの研修生も参加し、活発な質疑応答が行われました。



▲ 専攻科2年 特別研究発表会

2年生は、専攻科で取り組んできた研究について1年間かけて特別研究論文としてまとめました。令和6年5月30日に特別研究中間発表会

を行い、指摘された点に対して取り組み、さらに発展させた内容について令和7年1月30日に特別研究発表会で発表しました。学生は特別研究で得られた成果を発表し、参加者からの質問に対して的確に回答しました。これまで行ってきた研究に関して学生の深い理解を感じられる発表会となりました。2年生の進路について、進学は早稲田大学大学院、九州工業大学大学院、就職は大鵬薬品工業株式会社、DMG 森精機株式会社、三菱電機プラントエンジニアリング株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社メンバーズ、パナソニックエナジー株式会社、日亜化学工業株式会社、千代田エクスワンエンジニアリング株式会社、四国建設コンサルタント株式会社、西日本旅客鉄道株式会社となっています。

また、専攻科では国際交流を活発に行っており、令和6年10月3日に実施したシンガポール・リパブリック・ポリテクニクの学生36名へのAIプロ



▲シンガポール リパブリック・ポリテクニク AI プロジェクト サポート

ジェクト及び令和6年10月17日に実施したドイツ・オストファリア応用科学大学の学生10名へのAIプロジェクトのサポートとして活動するなど海外学生との交流を活発に行いました。

引き続き、専攻科での教育・研究環境を整えて、国際的に活躍できる未来のエンジニアや研究者を目指す学生の学習・研究を全面的にサポートしてまいりますので、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。